

《担当者名》 吉田 繁

【概要】

臨床検査学総論Iで学習した知識を基盤とし、腎臓の機能を評価する検査、尿検体中の細胞や非細胞成分といった様々な有形成分の形態学的検査について理解する。また、糞便や脳脊髄液をはじめとした各種体腔液を対象とした定性的検査や形態学的検査についてその種類や方法、意義を理解する。

【学修目標】

- 1) 一般検査の意義を理解するために、各種検体の採取や取り扱い、測定原理に関する知識を身につける。
- 2) 尿中の各種成分の測定原理、方法および意義を理解し説明できる。
- 2) 尿中の有形成分の種類と出現機序および意義を理解し説明できる。
- 3) 便潜血検査の測定原理、方法および意義を理解し説明できる。
- 4) 脳脊髄液の各種成分の測定原理、方法および意義を理解し説明できる。
- 5) 各種体液（喀痰、穿刺液、気管支肺胞洗浄液、精液、関節液）の各種成分の検査方法および意義を理解し説明できる。
- 6) 測定対象項目の測定に影響を与える共存物質を説明できる。
- 7) 測定結果と病態変化との関係を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ビリルビン、ウロビリノゲン	・ビリルビン、ウロビリノゲンの化学的検査法と意義 教科書：一般検査学 第2章-V-9、10	吉田 繁
2	血尿、ヘモグロビン尿	・血尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿の化学的検査法と意義 教科書：一般検査学 第2章-V-11	吉田 繁
3	亜硝酸塩、白血球反応	・亜硝酸塩、白血球反応の化学的検査法と意義 教科書：一般検査学 第2章-V-12、13	吉田 繁
4	pH、尿自動分析装置	・pHの化学的検査法と意義 ・尿自動分析装置の構造と原理 教科書：一般検査学 第2章 VIII	吉田 繁
5	尿沈渣検査	・尿沈渣の標本作製法、染色法、鏡検法 教科書：一般検査学 第2章 VII-1~4	吉田 繁
6	尿沈渣検査	・尿沈渣の血球、上皮細胞の種類と意義 教科書：一般検査学 第2章 VII-5、6	吉田 繁
7	尿沈渣検査	・尿沈渣の円柱、微生物、結晶の種類と意義 教科書：一般検査学 第2章 VII-5、6	吉田 繁
8	尿沈渣検査	・尿沈渣の異型細胞と異常結晶の種類と意義 教科書：一般検査学 第2章 VII-5、6	吉田 繁
9	腎機能検査	・腎機能検査の検査方法と意義 教科書：一般検査学 第2章 VI	吉田 繁
10	脳脊髄液検査	・脳脊髄液の生成と組成 ・脳脊髄液の一般性状 教科書：一般検査学 第4章	吉田 繁
11	脳脊髄液検査	・脳脊髄液の細胞学的検査法と意義 ・脳脊髄液の化学的検査法と意義 教科書：一般検査学 第4章	吉田 繁
12	糞便検査	・糞便の生成と組成 ・糞便の一般的性状 ・便潜血の検査方法と意義 教科書：一般検査学 第3章	吉田 繁
13	その他の一般検査	・喀痰・気管支肺胞洗浄液検査	吉田 繁

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<ul style="list-style-type: none"> ・精液検査 ・穿刺液検査 ・その他の体液検査 教科書：一般検査学 第5、9～11章	
14	その他の一般検査	<ul style="list-style-type: none"> ・ポルフィリン体，フェニルケトン体，アルカプトン、5-ヒドロキシインドール酢酸（5-HIAA）、バニルマンデル酸（VMA）の検査方法と意義 ・妊娠反応の検査方法と意義 教科書：一般検査学 第2章 V-17～19	吉田 繁
15	一般検査のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・一般検査結果の評価 ・検査結果から病態を考える。 キーワード：尿路感染症、髄膜炎、大腸がん	吉田 繁

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 80% 小テスト 20%

【教科書】

三村邦裕 編集「最新 臨床検査学講座 一般検査学 第1版」医歯薬出版 2016年

【参考書】

伊藤機一 編集「標準臨床検査学 臨床検査総論 第1版」医学書院 2015年
 岡田茂治 他 編集「一般検査 技術教本」丸善出版 2017年
 宿谷賢一 他 編集「髄液検査 技術教本」丸善出版 2015年
 八木 靖二 他 編集「ポケットマニュアル 尿沈渣 第2版」医歯薬出版 2016年
 八木 靖二 「実力STEP UP問題形式による尿沈渣の鑑別」医歯薬出版 2008年
 東間 紘 「そこが知りたい尿沈渣検査」医歯薬出版 2006年

【備考】

その都度プリントを配布する。
 クリッカーを使用した双方向型授業を行う。
 Google Formを利用して学習課題（小テスト）を提示する。

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書を読んでおくこと（80分）
 復習は、教科書や配付資料、小テストを活用し学習を深めること（80分）

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

【実務経験】

臨床検査技師

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、検体採取から結果の解釈までに関する基本的知識を講義する。